

	質問事項	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	わからない
1	学校は、子供が生き生きと活動する魅力学校づくりに努めている。	19%	62%	7%	1%	11%
2	学校は、思いやりの心の育成に努めている。	18%	53%	13%	1%	15%
3	学校は、家庭への連絡を積極的に行い子供のことについての相談に適切に応じている。	32%	49%	7%	2%	10%
4	学校はスクールカウンセラーを設けるなど、相談しやすい体制ができています。	34%	51%	5%	1%	9%
5	学校はいじめの防止に対して積極的に取り組んでいる。	15%	46%	7%	3%	29%
6	学校は、支援が必要な子供に対して必要な支援ができています。	19%	47%	6%	1%	27%
7	子供は学校行事に対して積極的に参加している。	53%	39%	5%	1%	2%
8	子供は、将来の夢や希望をもって学習している。	18%	47%	20%	6%	9%
9	子供は学習に意欲的に取り組んでいる。	24%	41%	23%	8%	4%
10	子供は授業がわかりやすいと言っている。	10%	43%	21%	7%	19%
11	部活動は、子供の成長にプラスになっている。	46%	31%	4%	3%	16%
12	学校は保護者や地域の人達と連携して教育活動を行っている。	19%	48%	6%	1%	26%
13	学校は、子供の健康・安全に配慮した環境整備がなされている。	25%	56%	3%	1%	15%
14	学校は、各便り、ホームページ、保護者会などで、学校の様子をわかりやすく伝えようとしている。	38%	54%	3%	1%	4%
15	学校は、子供の健康保持や体力向上のために努力している。	25%	55%	4%	1%	25%
16	子供はケータイ、スマートフォン、パソコン端末などを使う時、約束・ルールを守っている。	21%	48%	20%	9%	2%

**【集計を終えて】** 今年度は回答項目に新たに「わからない」の選択肢を加えてご回答いただきました。上記の集計結果をもとに、全体から「わからない」の割合を引いて算出した結果、16項目の質問中 10項目において肯定的な評価が90%を超えました。その中で「子供は学校行事に対して積極的に参加している」について「あてはまる」の割合が特に高かったです。一方「学校は思いやりの心の育成に努めている」「子供は授業がわかりやすいと言っている」については肯定的な評価が低い結果でした。

### 「学校は、思いやりの心の育成に努めている」について

生徒会による「いじめをしない宣言の署名活動」や、「イローリボン運動」、道徳の授業等が心の教育につながる活動として定着していると感じます。今後も日々の学校生活の中で自他の思いや考え方を共有し、尊重し合う場面を増やしていき、思いやりの心を育むことに繋がっていきたくと考えています。また、情報社会において適正な活動を行うための基になる情報モラル教育として今年度は、全生徒向け講演会、希望保護者向け講演会を開催しました。今後も引き続き力を入れていきます。

### 「子供は授業がわかりやすいと言っている」について

今年度「主体的に学習に取り組む生徒を育成するための指導方法の研究」に向けて、ICT等を活用した学びの実現を目指して各教科で日々授業に取り組みました。その中で1人1台タブレット端末を活用した教育ツール「モノグサ」を全生徒対象に通年導入しました。学習ツールのひとつとしてのタブレットの効果的な活用方法を模索しつつ、学習の基礎・基本の定着を図るために各教科で「視覚に訴える」「ノートに書く」「話す」「読む」「体験する」「ドリル学習」「補習」等更なる工夫を行い、「わかる授業、学力の向上」に繋げる必要があると考えています。

### 「学校は、子供の健康保持や体力向上のために努力している」について

健康保持に向けて、感染症対策については保健委員会を中心に「換気」「手洗い」「うがい」等で予防に力を入れてきました。また、給食では栄養バランスの良い食事を提供しています。今後も健康保持や体力作りの向上、食生活の充実に努めていきたいと思っております。

### 「学校は保護者や地域の人達と連携して教育活動を行っている」について

本年度より開始した「地域学校協働活動事業」として推進員を中心として学校運営協議会で活動内容について協議し、2年生対象職業講演会、除草作業、畑作りを企画運営しました。また体育祭、合唱祭等ではPTA中心にお手伝いにご協力いただきました。今後も生徒たち一人一人が主体的に活動し、個人やクラス、学年の成長に繋がられるよう「学校」「家庭・地域」が連携して教育活動を行ってまいります。

## 《学校運営協議会 学校評価》

- SNSトラブルが後を絶たないと感じる。使い方を間違えると大変な問題に発展する。家庭でのルールや学校における情報モラル教育を今後も継続して行う必要がある。講演会の講師を運営協議会委員でも探していきたい。
- 
- 個別の学習支援についてICTによるドリル学習や、放課後の学習会、夏休みの学習会（今年度は薬園台高校の生徒による支援）はとても良い取り組みであったと思う。
- 思春期の子供たちは心を閉ざし、友達にすら言えない悩みや相談を抱えている場合が多い。大人がどのような支援をしていくかが課題。